



早稲田大学大学院アジア太平洋研究科  
Graduate School of Asia-Pacific Studies, Waseda University  
[www.waseda.jp/gsaps/](http://www.waseda.jp/gsaps/)  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-21-1 早大西早稲田ビル7階  
Nishi-Waseda Building 7F, 1-21-1 Nishi-Waseda, Shinjuku-ku, Tokyo 169-0051 Japan  
TEL:+81-3-5286-3877 FAX:+81-3-5272-4533 E-MAIL:gsaps@list.waseda.jp

## お茶の水女子大学に対する特別経費「JICA、国内五女子大学コンソーシアムとの連携協力による途上国女子教育・乳幼児保育の人材育成の支援強化充実」に関する評価について

私は、この特別経費事業が以下の 2 つの観点から、普遍的な意義を有する事業であると評価します。

まず、「女性の役割を見据えた」国際協力への指向性は、世界的な潮流であるとともに、ODA や国際機関を通じた協力に関する日本政府の政策的な方向性と合致するものです。国連ミレニアム開発目標をはじめ、21 世紀になって以来の G8 サミット等の国際協力に関する国際的合意・フォーラムの場で、「女性の役割」の重要性は繰り返し指摘・確認されてきました。お茶の水女子大学グローバル協力センターはまさにそうした国際的議論の中心的な存在として、例えばユネスコのアジアにおけるジェンダーと教育ネットワークやアフリカ女性教育者フォーラムと協働しながら、国際社会において日本の研究機関としては異例の存在感を示してきたと思います。このような世界に対して日本の顔の見える知的発信の拠点として、グローバル協力センターの存在意義と可能性は大きいと考えます。

また、大学間ネットワークの形成を通じた国際社会への貢献というモデルは、2002 年のカナダ・カナナスキスサミットで日本政府が発表した「成長のための基礎教育イニシアチブ」や 2006 年の文部科学省国際教育協力懇談会による最終報告『大学発知の ODA—知的国際貢献に向けて—』でも提唱され、明確に日本の国際協力の方向性となっています。私はお茶の水女子大学が他の主要 4 女子大学とアフガニスタン女性教育支援の取り組みを始められた時から、外部専門家として、その協働作業に関わらせていただきましたが、日本を代表する女子大学として 5 女子大学の連携強化のために強いリーダーシップを發揮されてきたことを高く評価しています。女子大学の協働体制の構築は困難な課題を抱えた時もありましたが、グローバル協力センターが整備されたことにより、有機的で安定した連携ができるようになりました。また、グローバル協力センターは、女子大学のみならず、筑波大学、名古屋大学、大阪大学、神戸大学、広島大学、早稲田大学のような国際開発研究分野における中核的大学とも有機的なネットワークを構築し、その中心的な存在として大きな貢献をされています。

以上のように、グローバル協力センターの国内外での認知度や貢献度を考えると、今後のますますの発展が大いに期待されるところです。

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授  
黒田一雄

黒田 一雄